

学校番号	学校名	校長名
111	川崎市立岡上小学校	岩倉 義則

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>学校教育目標 「つよい子 正しい子 ほがらかな子」</p> <p>【つよい子】確かな学び、くじけぬ心、健康体力を培う</p> <p>【正しい子】人と地域と自然と共により良く生きる基盤を培う</p> <p>【ほがらかな子】自他を認め、尊重する豊かな人間性を培う</p>	<p>○倫理観と使命感をもつ協働的な教職員による安全・安心な学校体制の構築</p> <p>○「岡上で言葉を」</p> <p>・主体的な学び合いと習得・活用・探究を通した質の高い学習の実践</p> <p>・人と地域と自然とに主体的に関わり、その良さを活かす学習の推進</p> <p>・人権と多様性を認め、尊重することを基にした学習、児童理解と支援の推進</p>	<p>◎言葉を大切にしたい教育活動</p> <p>【学び合い】</p> <p>○自ら課題を見つけ、解決しようとする力を育む</p> <p>○異学年交流等を通して子ども達の、「リーダーシップ」「フォロワーシップ」を育てる</p> <p>【つながり合い】</p> <p>○多様性を認め合う心、自己信頼、他者信頼の心を養成し、人権意識を高める</p> <p>【支え合い】</p> <p>○いじめを許さない心の醸成と環境を構築する</p> <p>○事件・事故防止に向けた指導と体制の強化</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<p>◎言葉を大切にしたい教育活動</p> <p>(学び合い)</p> <p>○相手に伝わる言葉</p> <p>・授業や日常行動で言葉を大切にしたい教育活動を行うために職員間でどのクラスでも行っていく指導や活動に対して共通認識をもつようにする。</p> <p>○自分で言えるように</p> <p>・自分の気持ちを自分で言葉で伝えられるようにこちらが待つこと、そして必要に応じて言葉を少し添える支援を行う。</p> <p>(つながり合い)</p> <p>○たてわり班活動やクラブ活動、委員会活動など異学年交流を通してリーダーシップやフォロワーシップを育てることで、言葉をかけ合いながら関りを深めるようにする。</p> <p>(支え合い)</p> <p>○児童の言葉を受け止める。</p> <p>○児童間のもめ事にあたる時には、児童からの聞き取りを大切に、相手の気持ちを理解しよう心がけ、児童から直接言葉で気持ちを聞くよう心がける。</p> <p>○自分の思いを自分の言葉で伝えるように教育活動全体を通して指導する。</p> <p>(安全・安心)</p> <p>○児童間の問題にあたる時には、児童からの聞き取りを大切に、児童から直接言葉で気持ちを聞くよう心掛ける。(安全・安心)</p>	<p>・学習全般において言葉を大切にしたい教育活動をあらゆる場面で意識的に設定した。その中で言葉を大切にしようとする心情を育ててきた。</p> <p>・自分なりに言葉で表出できるよう我慢強く繰り返し支援するとともに、様々な人との交流を通し言葉で伝えられるよう支援してきた。</p> <p>・言葉を表出することを苦手とする児童や、語彙が少ない児童への支援が今後課題になる。</p> <p>・たてわり班活動を継続して行ったり、リーダーシップとフォロワーシップをとることができるような活動を行ったりすることで、他学年の児童のことは知ることができた。たてわり班活動以外の活動でも異学年とかかわり合うことができる機会をもつことでより児童のリーダーシップとフォロワーシップを育てることにつながる。</p> <p>・「学校は児童の声に耳を傾けている」ことについて、9割5分以上の児童が肯定的に捉えている。相談体制の充実や「誰にでも話していいよ」との声掛けを多くすることが、児童、保護者の安心感につながっている。</p> <p>・「自分や相手を大事に思う心が育っている」ことについて肯定的に捉えている児童が9割5分以上いる一方、「相手に伝わる言葉を使っている」ことについては否定的に捉えている児童が2割程度いる。自分の考えや思いを相手に伝えることに課題がある。</p> <p>・自分の気持ちを言葉に表し、友達との関係をどのようにしたいのか言葉にすることで、児童は気持ちを整理しながら考えることができた。効果的な聞き取りの方法などは職員全員で身に付けていきたい。</p>	<p>・いろいろな言葉を、たくさん触れさせながら様々な言葉があることに触れさせていきたい。</p> <p>・言葉が繋がったときの喜びをたくさん経験させて、自信につなげていきたい。</p> <p>・語彙を増やすために、授業内だけでなくモジュールや家庭学習などを用いて学びを深めていきたい。</p> <p>・たてわり班活動以外でも、委員会が計画したイベントなどで年間を通して異学年で関わり合う機会を設ける。</p> <p>・SOSの出し方受け止め方教育を進めるとともに、児童の言葉の受け止める教職員の意識向上を図る研修やOJTを実施する。</p> <p>・教育活動全体を通して、対話する場面を多く設定し、自分に自信がもてるように、相手に伝えることに自信がもてるようになることを目指す指導を意識する。</p> <p>・児童支援コーディネーターの聞き取りの技術などは、職員全員に伝えていく。</p>	
2	<p>【学び合い】</p> <p>・「主体的な学びの進め方」を全体確認する。</p> <p>・相手に伝わる言葉の使い方を共通認識したうえで指導し、言葉を大切にすることを養う。</p>	<p>○豊かな体験活動</p> <p>・体験活動を通し、人との交流を通しねらいを達成する。</p> <p>○職員同士での学び合い・授業力向上</p> <p>・職員同士で意見交流を通し、必要な言葉の定着について考える。また研究授業で視点を設け、学びの質を高める。</p> <p>○児童の主体的な活動</p> <p>・心と体の状態に興味を持たせる。</p> <p>○個に応じた取出し支援</p> <p>・「はなまる学習室」の周知・活用。専科指導の推進・充実。</p>	<p>・人との交流を通し、その人や地域の思いや願いに直に触れ、考え方や多様性に気づき自分の考えに取り入れようとしていた。</p> <p>・研究で学びについて研究を行った。引き続き「自分や友だちの考えから学びを深める学習」の研究を続けていきたい。</p> <p>・児童同士での交流を安全に十分配慮したうえで交流が行った。また、自分の健康が心とつながっていることは指導を通してある程度認識しているが、体力の向上を含めた活動の方法については引き続き検討していく必要がある。</p> <p>・「はなまる学習室」は必要な児童について丁寧に寄り添い、丁寧に近づけてきた。専科指導については専門性を生かして「できる自分・わかる自分」を目指してきた。</p>	<p>・職員間で各学年のつながりを確認していく。その学習が繋がっていけるよう再確認をする。</p> <p>・研究は引き続き視点をもって研究を進めていく。また、職員研修などで授業力向上の研修を行いたい。</p> <p>・体力の向上については部会を中心に検討し、具体的な方法を講じて心と体についての考え方をさらに深めたい。</p> <p>・「はなまる学習室」は学校だより等でより周知していく必要がある。また、専科学習は保護者の理解を含め、授業参観の推進を行う。</p>
3	<p>【つながり合い】</p> <p>子ども達どうしのリーダーシップやフォロワーシップを育てる。</p>	<p>○「つながる言葉」を意識できるようにする。</p> <p>○リーダーシップやフォロワーシップを育てる。</p> <p>・異学年交流を通してリーダーシップやフォロワーシップを育てる。</p> <p>・たてわり活動などの異学年交流を通して、子ども同士のかかわりを豊かにし、「温かい雰囲気」の集団をめざす。</p>	<p>・ふれあいの集い(たてわり班遠足)では、ペアになる学年と行動した。上の学年は自分たちが周りたいコースを一方向的に決めるのではなく、下の学年の児童の言葉に耳を傾けようとしていた。</p> <p>・年間を通して行ってきた「たてわり班活動」では、6年生が中心になって活動を計画したり、進めたりしてきた。1月からは6年生から教わりながら5年生が中心となり活動してきた。下の学年の児童は高学年の話聞き、活動を楽しむ姿が見られた。</p> <p>・5年生は6年生から学ぶことが多かった。年度の初めから一緒に活動する時間があるとよい。</p>	<p>・ペアになる学年どうしの関りを深めることで、たてわり班全体での活動に生かすことができるようにする。</p> <p>・行事等を計画・実施する際、児童のリーダーシップ・フォロワーシップを意識した活動になるように職員でねらいを確認する。</p> <p>・年度の初めから6年生と5年生と一緒に活動を計画したり、進めたりする。</p>
4	<p>【支え合い】</p> <p>・多様性を認め合う心、自己信頼、他者信頼の心を育て、人権意識を高める。</p> <p>・個の能力や特性に応じた支援を行う。</p>	<p>○キャリア在り方生き方教育の推進、共生*共育プログラムの実践およびSOSの出し方・受け止め方教育を推進する。</p> <p>○定期的に学校生活アンケートを実施し、児童と教職員の対話を基にして自己信頼や他者信頼の心を育てる。</p> <p>○「はなまる学習室」を設置し、個の能力や特性に応じた支援をさらに推進する。</p>	<p>・キャリア在り方生き方教育の一環として、岡上在住の方から夢や仕事に対する思いを学んだ。身近な大人との関りを通して、人の思いや、自分のこれからの成長について見つめる良い機会となった。さらに、自己信頼や自己肯定感を高めるために、教育活動全体を通して、自分の良いところや成長に気づく教育活動を推進する必要があると考える、</p> <p>・共生*共育プログラムの実践を計画的に行う中で、自分づくり、仲間づくりを推進した。「自分や相手を大事に思う心が育っているか」の質問内容に9割以上が肯定的にとらえている結果となった。今後は自分や相手を大事に思う心が育っていないと考える児童がいることに注視し、教科等の学習活動をさらに充実させ自他を大切にする人権意識を高める必要がある。</p> <p>・「はなまる学習室」において個の能力や特性に応じた、細やかな支援を行った。今後は個の課題に合わせた効果的な学習をさらに進め、自分の成長を実感できるようになることを目指す。</p>	<p>・教科等の単元、題材や行事等の学習活動の過程において、さらに自己を見つめ、成長を実感できるように工夫する。(学習のまとめと評価の充実)</p> <p>・自己信頼、他者信頼を育てるために共生*共育プログラムの実践研修を行い、自分づくりや仲間づくりを通して、自他を大切にすることを育てる。自分や相手を大事に育てていないと考えている児童一人一人を注意深く見ていき、教職員間で共通認識のもと支援する。</p> <p>・児童と教職員の関係を大切にするとともに、SOSの出し方・受け止め方教育の充実を図り、教職員の意識とスキルの向上を図る。</p> <p>・「はなまる学習室」利用児童の個別の学習計画を作成し、児童・保護者・担任・はなまる担当が児童の実態と目標について認識を合わせ、効果的に指導を進める。</p>
5	<p>【安全・安心】</p> <p>いじめを許さない心の醸成と環境の構築</p>	<p>○自他ともに大切にすることを基本とした人権教育の推進を図る。</p> <p>○道徳教育の授業実践を中心に相手の立場に立ち人とかかわりを作り上げていく素地を作る。</p> <p>○支援教育コーディネーターを中心に、児童の実態把握を迅速に行い、素早い対応につなげるようにする。学校全体で対応できるよう管理職をはじめ、学年の担任、養護教諭等を中心にチームで児童対応にあたるようにする。</p>	<p>・効果測定をもとにしながら児童の個性や人間関係を見取り全校で共通理解を図ってきた。さらに、日常生活や学習の中で人権教育や相手意識をより意識していけるとよい。</p> <p>・道徳教育とともに、SOS出し方受け取り方教育を行い、伝え受けとめることの大切さを指導した。困ったときに本人だけでなく周りの児童も相談してこうとする意識が育ってきている。</p> <p>・支援教育コーディネーターを中心として、児童の気になる様子についての情報共有が図られている。また、毎回の職員打合せで情報提供があるので学校全体で児童の様子を見ることができた。</p>	<p>・効果測定で明確になった学級の課題を意識しながら道徳教育、共生共育、人権尊重教育を充実させる。全教師が全校児童をみていくことを目指し、教師が日常的に児童への言葉がけを配慮しながら一人一人を大切に育てる。</p> <p>・きつい時に周囲に発信できるように表現することの大切さを伝え、日常の中で表現する場を意識的にもつ。また、聞くことを大切にしていこう。</p> <p>・児童の実態に応じた支援や指導ができるように校務支援システムのデータベースを有効活用し児童理解を一層深めていく。</p>
6	<p>【安全・安心】</p> <p>事件・事故防止に向けた指導と体制の強化</p>	<p>○緊急時(地震・火災等)のマニュアルを充実させ、その活用方法について教職員で確認していく。</p> <p>○マニュアルの作成だけでなくとどまらず、さまざまなことを想定した避難訓練を計画し、実践していく。</p>	<p>・発生状況を変え、複数回訓練を繰り返すことで児童が状況を的確に判断し落ち着いて対応することができた。不審者に対応した訓練は、今までの児童との訓練に加え、職員だけの訓練を行った。</p> <p>・岡上防災学習日では地域と協力した学習を展開できた。地域の方の話や体験活動を通して、児童にとって防災がより身近になった。</p>	<p>・地震や火災の発生状況のパターンはいくつもあるため、長期的な見直しをもって計画的に行っていく。</p> <p>・今年度の反省も生かし、児童の実態、地域の実態に合った防災・防犯計画を作り上げていく。</p>